

■藤原惺窩 儒学者。弟子の林羅山を徳川家康のブレンに推薦、公家や僧によらない学問思想の祖になった。

ふじわらせいかに

川中島最激戦1561= 播磨国細川荘で、藤原定家を祖とする冷泉為純の子に生まれる。

岐阜楽市楽座1567= 6歳：地元の景雲寺で読み書きを習ううち、

織田信長入京1568= 7歳：

石山合戦始・1570= 9歳：

豊かな学才が、有名な僧だった伯父寿泉に知られ、

室町幕府滅亡1573=12歳：

安土城築城・1576=15歳：\_相国寺に入門。

上杉謙信没・1578=17歳：\_父と兄が別所長治と戦って殺され、家領も一挙に失い、その衝撃を消すべく修行に励むうち、

安土教会許可1579=18歳：

健康を害して、有馬温泉で湯治、そこで竜野の\_領主赤松広通(斎村政広)と出会い、学問を通じて親交、

パリヤーノ謁見 1581=20歳：\_学才五山第一といわれるほどの逸材に成長。

本能寺の変・1582=21歳：

賤ヶ岳の戦い・1583=22歳：吉田兼見の猶子となる。

刀狩海賊取締1588=27歳：

秀吉全国統一1590=29歳：\_朝鮮から通信使が京都に来た際、筆談で通訳を務めたことから、李氏朝鮮を代表する儒者と出会い、儒学に目覚める。

士農工商公布1591=30歳：\_漢詩への関心高い豊臣秀次から呼び出しの声がかかるも、取り巻きの僧らを嫌って固辞するうち、命の危険を感じるようになり、朝鮮出兵のため赤松広通(斎村政広)ら大名が集められた肥前の名護屋に逃れ、

方広寺大仏殿1593=32歳：\*そこで出会った徳川家康に求められて「貞観政要」を講じ、家康が江戸に引き上げるのにも随行。

儒学に専念するうち、伯父寿泉とも対立、ついに縁を断って、\_還俗し、

26聖人殉教・1596=35歳：\_儒学の師を求めて明国への渡航を企てるが、船が難破して鬼界ヶ島に漂着、

慶長の役・1597=36歳：\_無事、\_京都に戻る。

豊臣秀吉没・1598=37歳：\_慶長の役の捕虜で京都に連れて来られた姜沆(朝鮮の朱子学者)と、赤松広通(斎村政広)の屋敷で出会い、

前田利家没・1599=38歳：\_赤松広通が姜沆に命じた四書五経に訓点をつけるのを手伝って、高く評価され、惺窩の名も貰う。

関ヶ原の戦い・1600=39歳：\*赤松広通(斎村政広)が関ヶ原の戦いで西軍に属して切腹となる。

この間、「論語」や「書経」から指導者の指針になる言葉を分かりやすく解説した教訓書「寸鉄録」を紀伊国大名浅野幸長に献上、「大学」を解説した「大学要略」で「日用人倫」を説くなど、儒学の基本的な教えを明示、

糸割符法始・1604=43歳：\_この年、林羅山が初めて訪れ、「惺窩答問」をまとめる。

徳川家康隠居1605=44歳：\*家康の求めに、かつて仕えた赤松広通を裏切ることができず、自分に代えて、林羅山を推薦、

江戸城完成・1606=45歳：

家康駿府退隠1607=46歳：\_林羅山が幕府初の儒官となり、のちの林家支配が始まる。

\_門下に多数の学者が輩出したが、松永尺五がその思想を最も良く伝え、官の林羅山に対して、民の立場から多くの儒学者を育てて、

大坂冬の陣・1614=53歳：\*中風によって半身不随となり、以後、京都北郊の市原山荘に隠棲するも、

大坂夏の陣・1615=54歳：

徳川家康没・1616=55歳：

\_大名たちに「大学」を講じるなど、儒者としての志を失うことはなく、

菱垣廻船始・1619=58歳：中風が再発して\_没した。